

平成28年度近畿部会総会を下記のとおり開催しますので、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

平成28年度（通算第24回）総会

- と き 平成28年6月14日（火） 午後1時30分～午後2時30分
- ところ 京都府立総合資料館 2階 会議室
所在地：京都市左京区下鴨半木町1-4
電 話：075（723）4836
交 通：京都市営地下鉄 烏丸線 北山駅下車 1番出口すぐ
<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>
- 議 題 平成27年度事業報告
平成27年度決算報告
平成27年度監査報告
平成28年度運営委員（案）
平成28年度事業計画（案）
平成28年度予算（案）など

近畿部会第133回例会

- と き 平成28年6月14日（金） 午後2時40分～4時20分
- ところ 京都府立総合資料館 2階 会議室
- テーマ 「岡山県立記録資料館10周年 ―それでも初志は変わらず―」
- 報告者 定兼 学 氏（岡山県立記録資料館 館長）
- 内 容 平成17年9月7日に開館した岡山県立記録資料館は、昨年度10周年を迎えました。これまで内外のさまざまな課題に対応しながら、記録資料の管理・整理・公開を積み重ねてこられています。長年岡山県における記録資料の保存・管理について、実践的なマネジメントのお話しをしていただきます

◎第132回例会報告

日 時：平成28年3月12日（土）13～17時

場 所：京都造形芸術大学 直心館

参加者：16名

全史料協近畿部会132回例会は、「古文書（近世村方、町方文書等）料紙調査のためのワークショップ—料紙の紙質や物性を理解するためのレクチャーと実習—」と題して、京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター准教授の大林賢太郎氏がお話されました。大林氏はこれまで京都国立博物館の東大寺文書を修復するなど、文化財の保存修復に携わられてきました。

今回のワークショップでは、修復に際して原資料の保存を一番に考えた場合、料紙の紙質や物性を見極め、それにふさわしい裏紙などの修復素材を選択することが重要であるという視点から、以下の3点を中心にすすめられました。

まず和紙の様々な特徴を理解するために、識別実習を行いました。おおよそ12種類の和紙を、それぞれの特徴が記された分類表をもとに実際に触ってみたり、C染色液で染色した紙の繊維を顕微鏡で観察したりして、現在「和紙」として総称されている料紙がその特徴によって一つ一つ分類できることを理解しました。

次に修復にあたって事前に調査する際の採寸・計量の仕方を実践的に学びました。マイクロメーターで料紙の厚さを測定したり、100分の1グラムまで計測できる電子機器を使って重さを量ったりするなど、より専門的な紙質調査を体験することができました。

最後に昨今の修復の傾向や考え方をご教示いただきました。ワークショップ終了後も、檀紙や奉書紙、真弓紙などの貴重な紙を実見する機会をいただき、大変盛りだくさんな内容でした。

「和紙」の識別には、採寸や計量など数値をもとにしたデータのみならず、色の微妙な違いなどの視覚的特徴や、振った際のパリパリといった聴覚的特徴なども重要な要因です。今回のようなワークショップ形式の講義ではそういった諸要素を、修復をご専門にされてきた大林先生から体験的に学ぶことができる大変貴重な時間でした。

岡山県立記録資料館では業務の一環として、所蔵資料の中から大物の絵図修復の委託を行っており、毎年数点の絵図を修復しています。実際の修復は業者が行っているものの、委託する事前調査の段階で、修復に際して注意しなければならない点を調査し、仕様書を作成しています。日頃の業務では修復を行う機会がない担当者にとって、修復に際しての手順や知識を実践的に得ることができる今回のような実習は、大変貴重で有意義な時間でした。ただ実践的な内容であるがために、ご準備が大変だったことと思います。担当してくださった大林先生、実習のサポートをしてくださった学生の皆さん、運営委員の方々には末筆ながらお礼を申し上げます。

（岡山県立記録資料館 近藤 萌美）